

# 教頭会会報

宮崎県公立小中学校教頭会

第143号 2023

令和5年2月7日発行



〈表紙〉

【写真左上】西諸県支会「アオバヅク（高原町立高原小学校）」

高原小学校には、毎年、初夏の時期になると校庭にある大きなセンダンの木にアオバヅクが飛来して子育てをしています。6月下旬にはかわいらしいヒナが育ち、愛くるしい姿を見せてくれます。子ども達からは「アオちゃん」という愛称で親しまれており、高原小のアイドルになっています。

【写真右】都城支会「立志の塔」（都城市立小松原中学校）

小松原中学校の正門を入ると「小松の森（自然の森）」と呼ばれる森が生徒や来校者を迎えます。この森は昭和33年に母校の緑化と自然観察の目的でPTAの協力を得て造られました。森には学校の花である金木犀や学校の木の椎の木をはじめとする多くの樹木が植えられています。その中に「立志の塔」が立っています。この塔は昭和50年度（第28回）の卒業生によって卒業記念として建てられました。塔にある言葉には、生徒が主体的に学び、考え、行動し成長してほしいという願いが込められています。

【写真左下】南那珂支会「道の駅くしま」

道の駅くしまは、飲食物産館、市民交流館、イベント広場、情報提供施設があり、串間の素晴らしさを知っていただきながら串間市民と県内外の人々の交流や串間市の情報を発信する施設『まちなかのオアシス』です。飲食物産館「物産コーナー」には串間でとれた新鮮食材を販売、「飲食コーナー」はぶりぶり井ぶりをはじめ、ご当地グルメがご提供されています。お近くに来られた際には、ぜひ、お立ち寄りください。

# 飛躍の年に

宮崎県公立小中学校教頭会

副会長 小 侍 祐 一

2023年（令和5年）は卯年です。うさぎは、その跳び姿から飛躍や向上を象徴すると言われてい  
ます。それぞれの学校で、子どもたちが大きく飛躍できるよう、各先生方が日々尽力されていることと  
存じます。

この冬は、3年ぶりに制限無しの年末年始休暇でした。新型コロナウイルス感染症の影響は続いて  
いるものの、様々な行事やイベント等は全国各地で開催されるようになりました。学校においても少し  
づつ規制が緩和され、感染症対策を取りながらではありますが、実施できるようになってきました。昨年  
度は、行事の計画や準備をしても中止せざるをえなかったり、クラスターを心配しながら保健所に  
濃厚接触者リストを提出したりしていたことを考えると、随分とコロナ前の生活が戻ってきたように感  
じます。ただし、コロナ禍では、ICTの推進や業務の見直し等が図られ、働き方改革の取組も進ん  
できました。すべてをコロナ前に戻すのではなく、それぞれの学校の実態に合わせて、誰一人取り残さ  
ない新しい学びを実現するとともに、教職員が質の高い教育活動に専念できる環境を実現するために、  
アフターコロナの学校のあるべき姿を作り上げていくことが求められます。

さて、宮崎県教育委員会では「地域と学校の絆を育む体制整備事業」として「地域学校協働本部」と  
「コミュニティ・スクール」の一体的な推進に取り組んでいます。「学校を核とした地域づくり」「地域  
とともにある学校づくり」のために、様々な取組が工夫され実践されています。学校を地域に開き、  
保護者や地域の方々の協力を得ながら、三者が連携してより良い学校づくりを目指す取組には、各学校  
の教頭先生方のお力によるところが大きいのではないかと考えます。様々な人や団体、関係機関等との  
つながりを大切に、学びの連携・協働を図っていききたいものです。

令和6年には九州地区公立学校教頭会研究大会宮崎大会が宮崎市で開催される予定です。令和5年度  
には、県の教頭会による実行委員会の立ち上げ等準備が本格化するとともに、各支部においては提言内  
容の充実を図るために研究活動を推進する必要があります。全国共通主題「未来を生きる力を育む魅力  
ある学校づくり」に基づいて、各支会の特性を重視しながら研究を深めていただきますようお願いいた  
します。

本年度も残り少なくなりました。各支部におかれましては、本年度のまとめとともに新年度の準備等  
に取り組まれていることと存じます。お忙しい中に、本会報に寄稿いただいた皆様、編集・発行に携わ  
っていただいた皆様、心から感謝申し上げます。また、県内すべての小中学校の会員の皆様方がご活躍  
され、皆様にとりまして「飛躍の年」となりますよう、ご祈念申し上げます。

結びになりますが、1年間、本会を支えていただきました宮崎県教育委員会、宮崎県市町村教育委員会  
連合会並びに宮崎県校長会に、心から感謝申し上げます。

# 支会だより

## 南那珂支会

### 1 構成

本支会は、日南市24校（小学校15校、中学校9校）、串間市11校（小学校10校、中学校1校）で構成されている。

### 2 支会役員

役 職	氏 名	学 校 名
会 長	尾 前 亮 一	日南市立吾田小学校
副 会 長	山 下 義 信	串間市立都井小学校
理事（日南市副会長）	川 越 賀 津 雄	日南市立北郷小中学校(小)
理事（日南市副会長）	前 田 幸 三	日南市立飫肥中学校
理事（串間市副会長）	水 谷 浩 文	串間市立有明小学校
理事（串間市副会長）	武 田 大 和	串間市立串間中学校
総 務 部（正）	河 野 賢 治	日南市立細田中学校
会 計（正）	若 林 史 宏	日南市立油津中学校
研 究 部（正）	日 高 徳 雄	日南市立飫肥小学校
法 制 調 査 部（正）	伊 鹿 倉 洋 樹	日南市立南郷小学校
広 報 部（正）	多 田 裕 幸	日南市立東郷小中学校(小)
渉 外 部（正）	下 沖 洋 徳	日南市立東郷小中学校(中)

### 3 研究の概要

#### (1) 研究方針

教頭の職務に関する研修の充実を通して、南那珂地区教頭の資質の向上を図り、各学校における児童・生徒の豊かな人間性と創造性を育み、未来を切り拓く学校教育の推進に資する。

#### (2) 研究内容

- 「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」を研究主題とし、「自立・協働・創造」をキーワードにして研究を深める。
- 教頭の職務に関する研修の充実を通して、南那珂地区教頭の資質の向上を図る。

(3) 本年度の研究課題

地区		研究課題	備考
日南市 *中学校と串間市 中学校は合同	小学校A	教育環境整備に関する課題	県紙上、地区紙上
	小学校B	子どもの発達に関する課題	課題について準備
	中学校	教職員の専門性に関する課題	県提言（県大会中止のため紙上）
串間市 *中学校と日南市 中学校は合同	小学校	組織・運営に関する課題	課題について準備
	中学校	教職員の専門性に関する課題	県提言（県大会中止のため紙上）

4 主要行事

月	活 動 内 容
6月15日	南那珂地区小・中学校教頭会（開催せず、資料配布）
7月28・29日	第64回全国公立学校教頭会研究大会岩手大会（オンライン開催）
8月17・18日	第62回九州地区公立学校教頭会研究大会鹿児島大会（中止）
11月 7日	第60回宮崎県公立小中学校教頭会研究大会（中止）
12月 3日	南那珂地区小・中学校教頭会（中止）

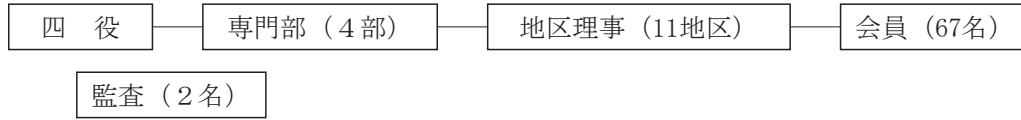
※ 新型コロナウイルス対応のため計画通りに実施できなかった。

※ それぞれの市で班別の研究課題解決に向けての協議や資質向上に関する研修を実施した。

# 支会だより

## 都城支会

### 1 構成



### 2 支会役員

役 職	氏 名	学 校 名
会 長	田 爪 隆 敏	大 王 小 学 校
副 会 長 (小 学 校)	碓 山 浩 一 郎	沖 水 小 学 校
副 会 長 (中 学 校)	坂 元 亮 一	姫 城 中 学 校
副 会 長 (三 股 町)	内 村 貴 久	三 股 西 小 学 校
総 務 (書 記 局)	田 中 竜 男	上 長 飯 小 学 校
会 計	岩 切 基 伸	南 小 学 校
研 究 部 長	今 村 隆 行	五 十 市 小 学 校
法 制 調 査 部 長	串 間 由 香 里	高 崎 中 学 校
広 報 部 長	牧 之 瀬 朗	小 松 原 中 学 校
厚 生 部 長	安 藤 聖 二	祝 吉 中 学 校

### 3 支会の研究目標

- 全国教頭会と研究目標をひとつにするとともに、日々の教育活動を充実させる学校経営の推進と教頭の在り方を究明する。

### 4 研究計画

月 日	会の名称	内 容
4月28日 (木)	都城支会教頭会 総会	・役員選出、令和4年度事業計画、予算 ・ブロック別協議 ・専門別協議
6月21日 (火)	第1回全体研修会	・外部講師講話 ・コンプライアンスの取組 ・ブロック別協議
6月～10月	地区別研修会	・地区別の研究テーマ
11月22日 (火)	第2回全体研修会	・法制調査部による研修 ・研究発表及び協議 ・ブロック別協議
2月20日 (月)	第3回全体研修会	・法制調査部による研修 ・研究発表及び協議 ・専門部反省 ・各地区反省、次年度計画

## 5 研修内容

- (1) 全国・県教頭会の研修課題を基本とした研修課題について
- (2) 日々の学校経営上の諸問題の対策について
- (3) 教頭の職務内容と役割について

## 6 班別研修内容

班	担当地区	R 4 年度研修内容	R 5 年度研修内容
1	姫城・中郷	4 組織・運営に関する課題	4 組織・運営に関する課題 地区発表①
2	沖水・志和池	3 教育環境整備に関する課題 ホームページ掲載 地区発表①	3 教育環境整備に関する課題 ホームページ掲載 (小)
3	庄内・西岳・夏尾	1 B 教育課程に関する課題 九州提言発表 (中)	1 B 教育課程に関する課題 ホームページ掲載(中) 地区発表①
4	妻ヶ丘・小松原・祝吉	5 A 教職員の専門性に関する課題 地区発表①	5 A 教職員の専門性に関する課題 ホームページ掲載 (小)
5	五十市・西	2 子どもの発達に関する課題	2 子どもの発達に関する課題 地区発表②
6	三股	1 A 教育課程に関する課題 地区発表②	1 A 教育課程に関する課題
7	山之口・高城	1 A 教育課程に関する課題 ホームページ掲載 (中)	1 B 教育課程に関する課題 地区発表②
8	山田・高崎	5 B 教職員の専門性に関する課題 ホームページ掲載(小) 地区発表②	5 B 教職員の専門性に関する課題 ホームページ掲載 (小)

## 7 都城支会の主要行事

月	活 動	月	活 動
4	第1回役員会 都城支会教頭会総会	10	第3回役員会
5	第2回役員会	11	第2回全体研修会
6	第1回全体研修会 講話「まちに笑顔の花が咲く」 宮田わかな さん (花ふぶき一座代表)	1	第4回役員会
8	全国公立学校教頭会研究大会岩手大会	2	第3回全体研修会
9	地区別研修	3	第5回役員会

# 支会だより

## 西諸県支会

### 1 構成

本支会は小林市（小学校12校、中学校9校）、高原町（小学校4校、中学校2校）、えびの市（小学校5校、中学校4校）の教頭で構成されている。

### 2 支会役員

役 職	氏 名	学 校 名
会 長	津 曲 健	小林市立小林小学校
副 会 長	東 篤 志	えびの市立真幸小学校
副 会 長	日 高 幸 浩	高原町立後川内中学校
総 務	長 友 正 明	小林市立小林中学校
会 計	谷 口 勇 人	小林市立飯野中学校
研 究 部 長	児 玉 寿	小林市立紙屋小学校
法 制 調 査 部 長	吉 村 政 文	えびの市立真幸中学校
広 報 部 長	黒 木 聖 雄	高原町立高原小学校

### 3 本年度の活動について

西諸県支会では、小林市教頭会、高原町教頭会、えびの市教頭会ごとに活動を行った。以下、各協会の活動を紹介する。

#### (1) 小林市教頭会

##### ア 教頭会研修の計画

期 日	開催場所	内 容
5月31日(水)	小林小学校	市教委からの連絡、教育長講話 研修：研究について提案、協議、情報交換
7月14日(木)	中央公民館	研修：アンケートの結果と分析、協議
10月13日(木)	中央公民館	市教委からの連絡、教育長講話 研修：アンケートの結果と考察、協議、情報交換
11月16日(水)	中央公民館	講話：小林市の歴史（小林市史談会） 研修：県教頭会研究大会研究提言原稿検討
1月19日(木)	中央公民館	【予定】市教委からの連絡・教育長講話 研修：研究のまとめ
2月14日(火)	中央公民館	【予定】市教委からの連絡・教育長講話 研修：次年度の研究について

##### イ 小林市教頭会の研究主題副題

研究課題 「教職員の専門性に関する課題」

研究主題 「教職員の資質・能力を高め、学校を活性化するための教頭の役割」  
～能力育成期、能力拡充期の教員～ の組織的・計画的な育成～



## ウ 研究の概要

「宮崎県教員育成指標」における能力育成期、能力拡充期の先生方にアンケートを実施し資質・能力で自分自身が課題と思っていることや、困っていること、悩んでいることについて調査した。その結果を分析し、教頭としてどのようにアプローチしていくか研究している。

## (2) 高原町教頭会

### ア 教頭会研修の計画

期 日	開催場所	内 容
4月 5日(火)	高原町中央公民館	町教頭会、教育長講話、研修計画
5月 16日(月)	高原町中央公民館	教頭会 第1回学力向上研修会
10月 4日(火)	小林市中央公民館	西諸県地区コンプライアンス研修会
11月 4日(金)	高原町中央公民館	教頭会 第2回学力向上研修会
3月	高原町中央公民館	1年間のまとめ

### イ 高原町教頭会活動目標

- (ア) 学校運営上の諸課題等についての研修を深め、教頭としての資質を高めることで学校教育の充実を図る。
- (イ) 町及び学校の教育的課題の解決のための具体的な研修を行う。
- (ウ) 教頭及び学校間の連携を図り、町一貫教育の支援等を行う。

### ウ 町一貫教育における教頭会の役割と内容

- (ア) 立場  
町一貫教育連携部会、町一貫教育保護者部会における指導・助言及び支援等を行う。
- (イ) 内容
  - ・町PTA連絡協議会、家庭教育学級と連携したメディアに関する啓発
  - ・地域学校協働活動推進のための支援（学校・家庭・地域の連携）

## (3) えびの市教頭会

### ア 教頭会研修の計画

回	期 日	研 修 内 容	会 場
1	5月 17日(火)	教育長講話、研修計画、市教委連絡	えびの市役所
2	6月 27日(月)	市教委連絡、学校運営研究会について	上江小中学校
3	7月 7日(木)	学校運営研究会（教育長講話）	えびの市文化センター
4	7月 14日(木)	学校運営研究会（原田校長講話）	えびの市文化センター
5	7月 21日(木)	学校運営研究会（鹿嶋校長講話）	えびの市文化センター
6	10月 4日(火)	西諸県地区コンプライアンス研修	小林中央公民館
7	10月 18日(火)	市教委連絡、コンプライアンス研修	真幸小学校
8	11月 24日(木)	市教委連絡、各学校の課題について	えびの市役所
9	1月 23日(月)	市教委連絡、人材育成について	えびの市役所

### イ えびの市教頭会の研究主題・副題

研究主題 「学校、家庭、地域との連携と協働を図る取組と教頭の役割」  
副 題「えびの市における地域学校共働活動を通して」

### ウ 研究のねらい

学校、家庭、地域との連携と協働を図るための教頭の役割・在り方を探る。

# 各支会新任副校長・教頭 随想

## 「地域の財（たから）とともに」

宮崎市立住吉南小学校 加藤 裕 邦

住吉南小学校の周辺には、多くの財（たから）が存在している。例えば、日本遺産に登録されている「蓮ヶ池横穴墓」や地域の伝統芸能「日平俵踊り」、「フェニックス自然動物園」、「市民の森公園」「フローランテ宮崎」等々……。本校では、これらの財を教育活動に生かさない手はないと各教科、総合的な学習の時間を中心に、贅沢なまでに活用させていただいている。その際、児童にとってより深い学びとなるための重要な財が他にもある。それは、人財である。地域や保護者の方々が実に協力的で、本校の教育活動に惜しめない支援をいただいている。その姿から、地域の子どもたちへの期待感が大いに伝わってくる。私は教頭として、まさに“地域の財”である子どもたちを預かる立場で、しっかりとその思いを受け止め、学校と家庭、地域をつなぐ要でありたいと思うと同時に、このような素晴らしい学校に赴任させていただいたことに感謝する毎日である。

南心=あつい心～「あたたかい心」「㊦よい心」「いどむ心」～

## 「教頭として」

宮崎市立加納小学校 上野 由夏

加納小学校は、児童数880名、総敷地面積、6.1ha、学校畑や約8,000㎡の敷地をもつ「たんけんの森」を有する自然豊かな学校です。その広さと児童数の多さに圧倒されたあの日から早や8か月が過ぎました。初めての教頭職、初めての小学校勤務の私にとって、この8か月は、小学生の可愛さに癒されながらも、経験すること全てが新しいことの連続であつという間に過ぎていきました。私が何とか日々をおくれているのも、校長先生をはじめ、教頭先生、周りの先生方からの温かい支えや励ましの言葉のおかげです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

支えていただいていることに感謝しながら、子どもたちにとって「わくわく感とニコニコ笑顔いっぱい」の学校、保護者にとって「信頼される学校」、先生方にとって「働きやすい学校」を目指して、微力ながら力を尽くしていきたいと考えています。

「わくわく感とニコニコ笑顔いっぱい」加納小学校

## 「初心を忘れず」

国富町立八代中学校 鶴丸 夕子

八代中学校は全校生徒65名、生徒会主体のボランティア活動が盛んで、普段から何か作業をしていると、「手伝います！」と声をかけてくれる生徒がたくさんいます。そんな優しい生徒たちや精力的に学級経営・教科指導に励む先生方、仕事に悩む私を励まし、温かく指導してくださる校長先生に囲まれ、管理職一校目にこの八代中学校へ赴任できたことに心から感謝しています。

今ではコミュカの塊のような私ですが、小学6年生の時に、友人関係の悩みで保健室へ行くことが増えた時期がありました。そのことに気づいた教頭先生がかけてくださった、温かく力強い励ましの言葉に救われたことは今でも忘れられません。以来、私にとっての「教頭先生」は、これまで赴任したどの学校でも「優しく、温かく、頼もしい存在」でした。これからは生徒や先生方にとって、私自身がそんな存在になれるよう、初心を忘れることなく努めていきたいと思えます。

ボランティア・スピリットアワード 5年連続受賞！ 心豊かな八中生！！

## 「自然と人の心豊かな地で」

日南市立鶉戸小中学校 岩 満 俊 彦

「今日から教頭としての仕事が始まる。」例えようのない緊張感を持って鶉戸小中学校に赴任した。青い空、青い海、緑豊かな山々を臨むことができる、全校児童生徒32名の小規模校である。純粹で屈託のない小学生と、さまざまな経験を経て、少し頼もしい中学生のおかげで、なんとか楽しく過ごすことができた。中学生が小学生の見本となり、しっかりと育っていく伝統が息づく学校。参観日には保護者が子供の数以上参加し、運動会等の行事には素晴らしい協力体制が整う学校。地域の方々の誰もが子供たちに手を振り、温かい声をかけてくれる学校。子供一人一人としっかりと向き合い、子供のよさを伸ばそうとする職員がいる学校。あつという間に過ぎていく日々の中で、大小さまざまな失敗をしてきたが、そのたびに「この学校のために頑張ろう。」と強く思う。お気に入りの場所、3階音楽室から見える宮浦海岸とそこに広がる青空が最高です。

鶉戸を愛し、鶉戸に学び、鶉戸に貢献する児童生徒

## 「新任教頭としての日々」

日南市立榎原中学校 黒 木 美 樹

私ほど恵まれている新任教頭がいるだろうか。現校長先生とは吾田中・油津中・そして榎原中とご一緒させていただくのが3校目だ。しかも、4月には前任校の油津中学校から揃って異動となり、後追いさせていただいた形だ。1から10まで質問しまくって仕事を進める私に呆れることもなく丁寧に指導くださる。感謝しかない。本当に幸運なのだ。

榎原中は全校生徒16名、職員数8名（非常勤の先生方が4名いらっしゃる）の平和な学校である。先生方も、この良く言えば個性的な新任教頭を暖かく見守り、様々なことに快く協力して下さる。生徒は素直で、勉強に部活動に委員会活動に学校行事に・・・と常に全力投球の日々を過ごしている。このような恵まれた日々が永遠に続くわけではない。「次の学校でやっていけるのだろうか」とふと覚える不安を払拭すべく、ここ榎原中で教頭職のイロハを学ぶため、今日も質問しまくりながら職務に当たっている。

自然を見つめ 自然と対話し 自然に学ぶ 生徒も職員も和気藹々 榎原中学校

## 「人生向上の坂道」

西都市立銀上小学校 安 影 亜 紀

銀上学園（銀上小・銀鏡中）の「人生向上の坂道」と名付けられた急こう配の坂道があり、雨の日も、水道管が凍るような寒い朝も、児童生徒は、徒歩で登校してきます。

本校は、県内で唯一、親元を離れ、銀上地区の里親さんの家ですごしながら、学校生活を送る、山村留学制度があります。新任教頭として赴任し、この学校で学ぶ児童生徒にとって何が大切なのか、教育の本質を見直すとても貴重な機会となりました。

この9か月の間に、地域の皆様の温かい御支援のもと、児童生徒とともに自然体験や伝統芸能等を堪能してきました。特に、12月14日に行われた銀鏡神楽では、神々の近くで生活していることを実感し、神楽継承のお手伝いができることに心から感謝しました。教頭としてさらに向上できるよう、児童生徒、地域、保護者それぞれの思いや願いを想像しながら、自分も坂道を上ります。

「自ら学び心豊かで心身ともにたくましい」西都銀上学園

## 「地域に根ざした教育を」

西米良村立村所小学校 馬場 義和

村所小学校は、村の中心部から山の方に上がったところに位置する。そのため、子供たちは毎朝、息を荒げながら急な階段を上って登校してくる。「おはよう～ございます。今日も1日頑張るぞ～」少人数の学校ではあるが、元気いっばいの声が山々にこだまする。

昨年4月から、教頭としてこの地に着任した。着任当初目の前のことすら全く見えず、不安でいっばいの毎日であったが、春・夏・秋・冬と季節も移り変わり、早1年を終えようとしている。子供たちにとって、本校職員にとって、そして地域の方々にとって、本当に役に立つことのできた教頭であったかと問われると自信はない。ただここに赴き、皆のためにどう動いたらよいかを考えながら、仕事をしてきたつもりである。これからも、地域に根ざして、皆に寄り添える、謙虚な自分でありたいと思う。

元気に登校 笑顔で下校 みんなでつくる村所小

## 「礎」

西都市立銀鏡中学校 小出 純

自然豊かな銀鏡地区で、鹿の交わす声や猪などを間近に感じながら、極寒厳しい冬を過ごしているところです。山や川などのとても環境の良い所ではありますが、その自然は時に厳しさや恐ろしさを見せてきます。昨年の台風14号では、道路の崩壊や荒れ狂う川で家が半壊するなどの甚大な被害があり、本校でも停電が続き、薄暗い中での授業実施や児童生徒・職員が数日間の暗闇の中での生活を通し、電力復旧の際は、電気のありがたさを実感しました。

その時支えとなったのは、子ども達の笑顔や元気な明るい声、そして地域での人とのつながりでした。また、全ての職員が子ども達の居場所確保のために様々な課題が残る中、学校を通常どおり頑張ってくれました。更に地域からは、情報提供や周辺環境の整備など、PTAをはじめとする地域の方々が、学校をしっかり支えてくださり大変感謝しております。

教頭となってようやく慣れてきたところですが、一番大切にすべきなのは、学校と地域とが一体となっていく礎となることだと思います。日々の歩みを一步一步と着実に進みたいと思います。

「自ら学び心豊かで心身ともにたくましい」西都銀上学園

## 「新任教頭雑感」

川南町立国光原中学校 由浅 公章

川南町立国光原中学校は、全校生徒148人の学校で、令和8年度から町内の唐瀬原中学校と統合し新中学校として開校する計画になっています。生徒たちは広大な台地や山と海を背景に伸び伸びと育っており、地域に対する思いと優れた可能性をもっています。

新任教頭として、本校に着任して9か月が過ぎました。令和4年3月末に新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者となり、4月1日の着任式、職員会等を欠席し、慌ただしくスタートしたことが懐かしく感じます。その後も初めての業務に戸惑うことが多い中、校長先生をはじめ、本校職員、PTA・地域の方々、川南町内の教頭先生方に支えていただきながら過ごしています。「教頭先生」と呼ばれ、自分の名前を呼ばれないことには慣れませんが……。まだまだ管理職としては未熟ですが、目の前にいる生徒、先生方のために精一杯取り組んでいきたいと思う日々です。

ふるさと川南を愛し 自ら学び未来を拓く 心豊かでたくましい生徒の育成

## 「教頭の職務」

都農町立都農中学校 谷口明文

学校教育法37条7項では、「教頭は校長を助け、校務を整理し、及び必要に応じて児童（生徒）の教育をつかさどる」と規定しています。このシンプルな文言が、教頭の職に就いてからは、毎日自分の頭に浮かぶ、意識せざるを得ないものになってしまいました。

この9カ月間、私は本当に校長を助けているのだろうか。校長先生からは、教頭の職務について丁寧に教えていただき、常に言動の奥深さに気付かされる毎日です。私は本当に校務を整理しているのだろうか。担当と気軽に相談できたり、和気あいあいと学校経営ビジョンを共有できたりするのも、素晴らしい先生方のおかげです。私は本当に教育をつかさどっているのだろうか。少ない授業時数でありながらも、忙しさを口実に時々おろそかにして反省することがあります。まだまだ修行が足りません！先生方や生徒たちに感謝しながら、さらに修行を重ね、自分らしさも忘れずに教頭の職務に励みたいと思います。

都農中学校経営ビジョンは、未来を生き抜く自律型生徒の育成！合言葉は「自律」、「尊重」、「貢献」。

## 「教頭先生！」

都城市立有水小学校 愛甲雅彦

「Helpです。教頭先生！」教務主任をしていた際の私の口癖(?)。わからないことがあるとすぐに隣に座っている教頭先生に助けを求め、相談し、教えてもらった。そして、たくさんのことを学ばせてもらった。しかし、4月 教務主任から教頭となり、状況は一変した。「教頭先生、これはどうすればいいですか。」判断を求められたり、相談されたりする立場になった。責任重大だ。赴任したばかりの学校。初めての管理職。「不安」の二文字しかない中、先生方に不安を与えないよう、精一杯考え、返答してきた。それでも??のときは、すぐに校長室に駆け込み、判断を仰ぐことも多かった。そんな日々も10か月目に突入。教頭としての存在はどうだろうか。安心して、先生方に声を掛けてもらっているだろうか。責任を果たせるような返答をしているだろうか。もう一度見つめなおし、「Helpです。教頭先生！」と言って頼ってもらえる存在になれるよう、日々精進していきたい。

自ら考え 進んで行動する 心豊かな 有水っ子

## 「橋がかかった朝」

都城市立中霧島小学校 田中尚子

自宅のある三股町から、霧島山を真っ正面に見て向かった先にある中霧島小学校に赴任が決まった4月。建設中の都城志布志道路の橋が、盆地を流れる大淀川に乙房側からちょっとだけ顔を出していた。30回の学級担任を経て就いた教頭職は、減りもしない書類の山を右に左にただひたすらに移動させているような感覚で前に進まない。自習監督、といわれると子供たちのいる教室に飛んで行って、「だれ先生？」と聞く1年生に「尚子先生だよ」と小声でささやき、浸透させようと躍起になっていた。あれから10ヶ月。先生方、子供達、地域の方々からもう「教頭先生」としか呼ばれなくなっているが、まだまだ失敗ばかり。大淀川に架かる橋は知らぬ間に対岸に届き、それに気付いた朝は感動で泣きそうだった。そこに在って、誰かの役に立てるように確実な仕事をしようと思った朝だった。

霧っ子たちの1日の始まりは、明るく元気な「おはよう」と心を込めたボランティア

## 「満天の星空」

都城市立木之川内小学校 安藤孝治

私は都城出身でありながら、実は木之川内小学校がどこにあるのか知らなかった。引継ぎのために初めて訪れたとき、大自然のパノラマに溶け込んだ校舎を見て、何だか気持ちがほっとしたのを覚えている。あれから早くも10か月が経過した。初めての教頭職で仕事に追われる日々であったが、子どもは明るく素直だし、先生方も本当に素晴らしい。このような学校で教頭としての1年目を踏み出せたことに感謝している。つい先日、忘れ物を取りに、夜、学校に来た時のこと。学校は満天の星空に囲まれ、今にも手が届きそうな無数の星々に感動してしまった。忘れ物を取りに来たことを忘れ、しばらく呆然と星空を眺めていた。ここは天体観測の穴場だと思った。誰にも教えたくない秘密の場所である。いや、これをお読みになった教頭先生は誰にも教えないくださいね。

自然がいっぱい 笑顔がいっぱいの木之川内小

## 「学級愛から学校愛・地域愛へ」

都城市立高崎麓小学校 片平陽子

私は、先生という職業が大好きだ。たくさん子どもたち、保護者と出会い、自分が理想とする学級経営をする。受けもった子どもたちとの一喜一憂した思い出は、私の宝である。しかし、4月から教頭となり、私の環境は、一変した。毎日、あれだけ好きだった先生の仕事が教頭という立場になり、とても苦痛に感じてきた。しかし、11月に創立150周年記念式典があり、その準備をする中でたくさんの方と出会った。皆さん、母校を愛し、母校のために何かできることはないか考えてくださる。私はそこに、感動を覚えた。そして、担任の時はあまり感じなかった『学校愛』『地域愛』を感じるようになった。私自身が、何か学校のため、地域のため、子どもたちのためにできることはないかと考えるようになった。150周年記念式典が終わった際、出席された方々が「良い式典だった」と笑顔で言ってくださった顔を忘れずに、これからも教頭という仕事を頑張っていきたい。

健康で、心豊かで、自ら考えて行動する子どもの育成

## 「伝統と革新と」

都城市立沖水中学校 平田智美

沖水中学校は、都城IC近くの大型店舗や多くの企業が並ぶ10号線沿いに位置しています。一方では豊かな畑が広がり、昔からの住民の方が多い地区でもあります。

この伝統と歴史ある沖水中学校に赴任して、約10か月が経とうとしています。初めての土地、業務の中で、教頭として迷いながら進む未熟な私を支えてくださったのは、校長先生をはじめとする先生方ももちろん、保護者や地域の方々でした。私たちは共通して『生徒(子ども)のこと』を一番とする思いを持ち、保護者や地域の方々にも温かく見守られている本校の生徒たちは、素直でのびのびと成長しています。近年は、コロナ禍のために地域や学校の多くの行事が中止となっていました。しかし、今年は少しずつではありますが活動を再開しています。これを機会に、沖水中学校の伝統を大切にしながら、より良い新たな学校運営ができるように尽力していきたいと思えます。

『自他共栄』 感謝の心と自他を大切にすることをもち、たくましく生きる沖水中生

## 「開校10年目のセカンドステージへ」

都城市立白雲小・中学校 堀内 潤一郎

都城市立白雲小・中学校は、児童自立支援施設「県立みやざき学園」に入園した子供たちが通う学校として、平成26年に開校した全国でも珍しい本校型の公立小・中学校である。それ故、本校の子供たちの中には、大人との信頼関係を構築できずに悩んでいる子供も少なからずいる。その多くは成育環境や障がい、特性などに起因しているもので、この学校・施設で職員と共に学び、体験し、生活する中で、信頼関係を築き学んでいく。そのために学校と施設の職員は、常に情報交換と相談・協議を繰り返し「教育と福祉の融合」を目指しながら、個々の児童生徒に応じた教育・自立支援を行っている。その本校も次年度（令和5年度）には開校10年目を迎える。前例の乏しい中で、立派な礎を築いていただいた先人の御苦勞に報いるためにも、学校長のリーダーシップのもと、さらなるステージを目指して改革を目論んでいるところである。

Withの精神～児童生徒とともにある「白雲小・中学校」～

## 「責任の重さを実感し」

えびの市立加久藤小学校 永野 一美

初めて教頭職に就いて、あっという間に1年が経とうとしています。約10年ぶりに学校現場に戻り、毎日子どもたちと接することに喜びを感じています。加久藤小学校の素晴らしい先生方や子どもたちに囲まれて最高の一年でした。教頭の職務は本当に多忙だと実感しましたが、とてもやりがいのある楽しい仕事だと思います。これからも先生方を支えながら、子どもたちが楽しく学校生活を送れるように邁進していきます。

目指す児童像：自立・感謝・貢献

## 「初心に帰り、今、思うこと」

えびの市立岡元小学校 三ヶ尻 和弘

本校は、霧島連山の麓、えびの市西部の鹿児島県境に位置する全校児童16名、職員数9名の小規模校である。これまでの勤務校で一番小さな学校、初任校以来、二十数年振りの西諸勤務である。「小さな学校の歴史を教頭として引き継ぐのか。初心に帰るぞ！」そう自分に言い聞かせ、教頭職をスタートした。

とは言え、これまでとは立場が変わり、業務が変わり、目にする景色も生活（単身赴任）も変わり…しばらくは、慣れるだけで精一杯だった。この頃の私は、さぞ頼りない教頭だったと思う。ようやく振り返る余裕が出来てきた頃、ふと「初心」のことを思い出した。「信頼関係・情熱・喜怒哀楽・謙虚・動いてなんぼ」これが私の「初心」である。この「初心」を胸に抱き、ようやく業務にあたるようになってきた。また、子どもたち・先生方・保護者の方・地域の方々の支えで、日々の業務もこなすことができ、感謝の気持ちでいっぱいである。毎朝、玄関前で子どもたちと、「お・か・も・と」の合言葉を一緒に唱えながら思う。「1日も早く、頼られる教頭になりたい。」と。

合言葉「**お**もいやりがいっぱい **か**んどうがいっぱい **も**やせじょうねつ **と**もだちとともに」

## 「日々精進」

えびの市立加久藤中学校 藤本浩幸

本年度4月から加久藤中学校に着任して早10ヶ月（1月末時点）が経ちました。着任するや否や初日から怒濤の日々が始まりました。教諭時代までの業務とかけ離れている業務ばかりで、手探りで進めることも少なくありませんでした。

しかし、校長先生をはじめ本校の先生方や他校の教頭先生方のアドバイスやサポートのおかげで、徐々に業務が軌道に乗り始めました。

今、教頭として心がけていることは“職員室の担任”として、「毎日すべての先生方と話をしよう」です。日によっては難しいことはありますが、いつもこれを念頭に置きながら先生方に意図的に話しかけて、親和的支援を行うようにしています。

今後も“職員室の担任”として、本校の先生方が“笑顔”で“やりがい”をもって生徒たちと向き合えるように日々精進していきたいと思えます。

あいさつ日本一への挑戦！ 大きな声で 目を見て あいさつ 加久藤中学校

## 「夢・挑戦・感動」

高原町立高原中学校 西畑洋和

13年振りに高原中学校に新任教頭として赴任した。広々としたグラウンド、施設の整った体育館、様々な授業に対応した教室、そして明るく元気な生徒たちと出会い、素晴らしい環境に恵まれていることを改めて実感した。とは言え、初めての教頭業務になかなか見通しが持てず、戸惑う日々が続であった。加えて、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、生徒や職員の状況把握と、感染拡大防止に向けた対策に苦慮した。そんな中、生徒や職員が夢や希望をもち、気持ちよく登校、出勤してもらいたいという思いから、毎朝、生徒玄関、職員玄関の清掃を心がけた。また、一日一日を大切に過ごし、何事にも挑戦するために、毎日の記念日を職朝等でお知らせした。生徒や職員のおかげで、様々な自粛や制限のある中でも学校行事等を成功させることができ、多くの感動を感じる事ができた。この「夢・挑戦・感動」をこれからも続けていきたい。

㊦くましい生徒 ㊧んどう（感動）する生徒 ㊨つつとした生徒 ㊩ールを守る生徒

## 「豊かな自然とともに」

延岡市立熊野江小学校 水俣輝男

熊野江小学校は、延岡市北部にある全校児童8名の極小規模校です。本校周辺はとても自然豊かで、徒歩5分で熊野江海水浴場に到着できます。空を見上げると、たくさんの鳶が悠々と飛び回っています。廊下側の校舎窓からは、山頂からパラグライダーが飛び立つ「鏡山」が見えます。この鏡山からの吹き下ろしの風がほぼ毎日吹いてきます。深夜には、時折、鹿やアナグマなどが運動場に訪れ、花壇の花を食べたり糞をしたりと、可愛い反面、少々厄介者でもあります。地域の方から新鮮な魚の差入れがあり、私の魚を捌く技術も高まっています。あたたかい保護者・地域の方々・先生方に恵まれ、少人数ならではの教育が実践されている本校です。この豊かな自然の中で、本校児童8名のために「教頭」としての仕事をしっかり果たしていきたいと思えます。

「汗いっぱい」「心いっぱい」「知恵いっぱい」の熊小っ子



## 「北方のために！」 「何かしなきゃ！」 「率先して！」

延岡市立北方学園小学校 岸 田 征 子

新任教頭として、やがて1年を終えようとしている。これまで、日々悩み、失敗し、迷惑をかけ、ご指導いただき…の連続であるが、おかげさまで、数多くの学びを得ることができた。さて、今年度を振り返ると、一番困難を要したことは、昨年9月、台風14号襲来に伴う学校の対応や甚大な被害を受けた家庭、地域そして関係機関との連絡・調整であった。「子ども達は大丈夫だろうか？」その不安に苛まれながら、朝、洪水や土砂崩れで寸断された道路をいくつも迂回しながら何とか出勤し、児童の安否が確認できたときは本当にホッとした。管理職という職の重みや責任を体感した日であった。そんな中、子ども達は各地区で誰に言われたわけでもなくボランティアを行っていた。泥だらけの家や道路を見て「北方の人たちのために！」 「何かしなきゃ！」 「率先して！」 という気持ちで始めたと言う。子ども達の言葉に目から鱗が落ちた。そして大事なことを学ばせてもらった。

一人一人が温かい それが北方のいいところ ～北方学園小学校児童会の標語より～

## 「吞舟の魚たる覚悟」

日向市立寺迫小学校 濱 田 公一郎

「吞舟の魚は枝流に游がず」以前、今村卓也日向市教育長より研修の際に賜った言葉である。小さいことにとらわれず、大きな目標に向かっていくことが大切だという意の言葉である。管理職になったら教職員のために不退転の覚悟をもてと、叱咤激励されていると、私は感じた。

それから数年後。覚悟を迫られる時が来た。雰囲気のととても良い職員室のおかげで、円滑に教頭としてのスタートを切ることができた。チーム寺迫の教職員に心から感謝したい。

本校の課題解決のために為すべきことは山積している。働き方改革・社会に開かれた教育課程の実現など、学校経営ビジョンの具現化のために思索を巡らす日々はこれからも続くであろう。いざという時に覚悟をもって判断できるのか。何よりも子どもたち、教職員のためになっているのか。迷うことも多い教頭業務の中で、「吞舟の魚」たり得るよう自分を磨き、研鑽を積んでいきたい。

牧水の 朗詠響く 子どもらの 郷土の誇り 寺迫の朝

## 「再び東郷の地に」

日向市立東郷学園若竹分校 小 野 真 嗣

若竹分校が開校した平成27年4月に私は教諭として赴任し、そこから3年間の若竹分校での勤務を経験した。少人数ながら、それぞれにとっても個性の強い児童生徒達と過ごした時間は、正直なところ大変だったが、大きなやりがいを感じていたのも事実だった。当初、教材などがあまり揃っておらず、東郷学園本校や他の学校からお借りしたり譲っていただいたりして、様々な支援を本当にありがたく感じたことを今でも覚えている。

そして令和4年4月、教頭として再び若竹分校に赴任することになった。強い個性とエネルギーにあふれた児童生徒達。児童生徒が少しでも学習に興味や自信をもつことができるように教材や対応の工夫を話し合う先生方。当時と変わらない若竹分校の魅力があった。日々悩みを抱えながら、それでも笑顔を絶やさず子供達の前に立ってくれる先生方に心から敬意を表したい。そして教頭として、先生方が迷ったときには方向性を明確に伝え、先生方が力失くしている時は話を聞いて励まし、一緒に子供達の成長を支えるチームの一員であり続けようと思う。

われらは共に 伸びゆかん ～東郷学園若竹分校～

## 「美郷北義務教育学校に赴任して」

美郷北義務教育学校 興 栢 晋

美郷北義務教育学校は、清流五十鈴川沿いに立地する学校です。自然豊かな環境の中、幼稚園生から9年生まで11の学年が学園生活を送っています。小学生や中学生が幼稚園生の世話をしたり、一緒に遊んだりする姿が見られ、温かい雰囲気にもまれた子ども達の笑顔いっぱいの学校です。また、職員も幼稚園・小学校・中学校の異なる校種の職員が、校種の垣根を越えて抜群のチームワークで日々の教育活動を進めています。和気あいあいとした職員室は、職員どうしの会話、笑い声であふれています。

このような素晴らしい学校に、教頭として赴任して1年が過ぎようとしています。まだまだ日々の業務に追われる毎日です。教頭2人配置、校種の異なる職員構成という義務教育学校ならではの環境の中で、先生方から多くのことを学びながら一人前の教頭を目指し、2年目の4月を迎えたいです。

美郷北義務教育学校は、やさしく・かしこく・たくましい児童生徒の育成を目指します。

## 「素晴らしい環境の中で」

美郷北義務教育学校 平 野 公 一

本校は、宮崎県で最初に義務教育学校となった学校で、幼・小・中の一貫校になります。4月に赴任し集団登校やバス通学で中学生や小学生が幼稚園生と手をつないで登校する姿が新鮮でした。学校の隣には五十鈴川が流れ、グラウンドの奥には椎茸原木栽培のほだ場があり、ホトトギスのさえずりが聞こえてくる素晴らしい環境の学校です。また、幼・小・中の先生方が一つの職員室で和やかに会話し、運動会など協力して運営していく素晴らしく連携のとれた学校です。

4月当初、前期課程の教頭とともに新任教頭として赴任し、これまでと全く異なる業務の多さに二人で戸惑いましたが、相談しながらどうにか教頭業務をこなすことができたのは、本校の職員が、温かい心で見守ってくれたからでもあります。教頭として、先生方のもつその素晴らしい力を発揮できる環境・雰囲気づくりを常に心がけています。今までの校長先生・教頭先生に教えていただいたことを胸に留め、相談できる環境・雰囲気を大切にし美郷の児童・生徒・教職員を育むことができるようにしていきたいです。

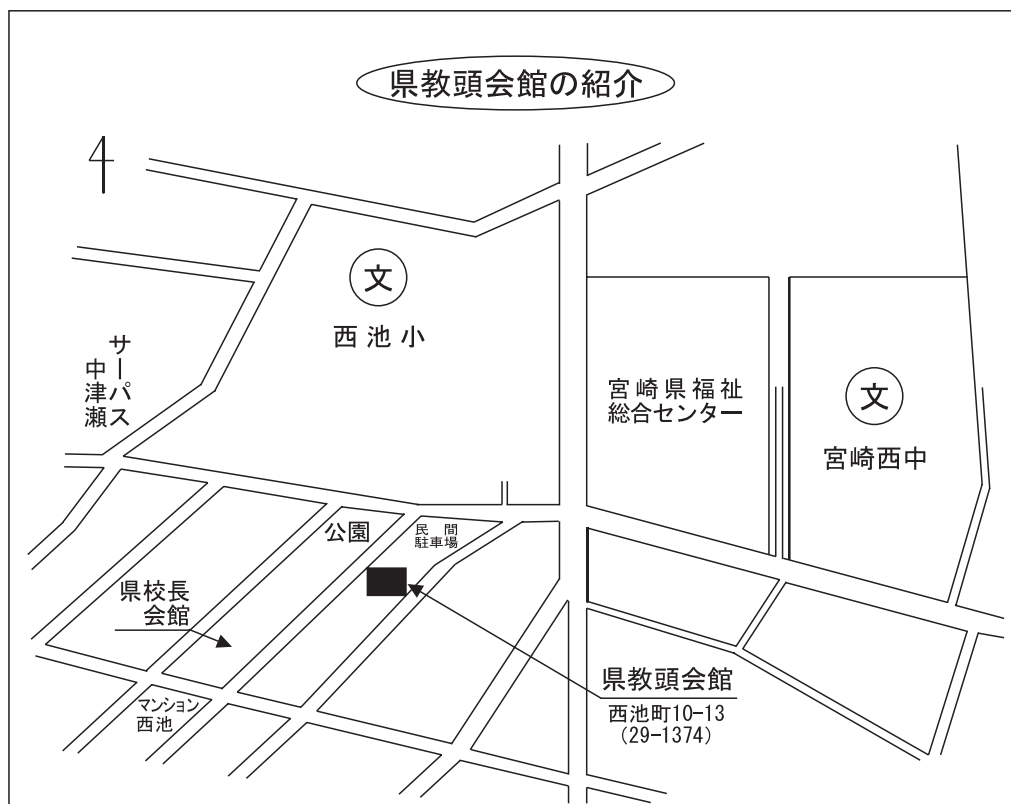
美郷を愛し、心豊かに健康で、自ら学び将来への夢や希望をもつ児童生徒の育成を目指します

## 「なんとか慣れてきたその時に…」

五ヶ瀬町立鞍岡小学校 島 洋 一 郎

「次の勤務校は、鞍岡小です。」3月に前任校の校長先生からそう告げられた時、驚いたと同時に「また、鞍岡での生活が始まる。」と嬉しい気持ちで一杯になった。鞍岡に勤務するのは今回で2度目である。20年前に、今は閉校となった鞍岡中学校に4年間勤務した。素直で何事にも真面目に取り組む子ども達、協力的で温かい保護者や地域の方々に囲まれて充実した日々を過ごすことができた。その風土は現在も継続されており、まさに「教育の原点は西臼杵にあり。」である。そんな自分にとって心のふるさとでもある鞍岡での勤務は、分からないこと、迷うことの連続で、前任の教頭先生に電話をかけるのが常となっていた。それでも少しずつ慣れてきたかなと思った矢先、地域のミニバレーの大会で、アキレス腱を切ってしまった。入院と療養で約2ヶ月休み、子ども達や先生方、保護者、地域の方々にたくさんの御心配・御迷惑をおかけした。だからこそ子ども達の笑顔と地域に愛される学校づくりのために努力し、恩返しができるよう何事にも精一杯取り組んでいきたい。

T (たのしく) A (明るく) G (元気よく) ~チーム鞍岡~



## 編集後記

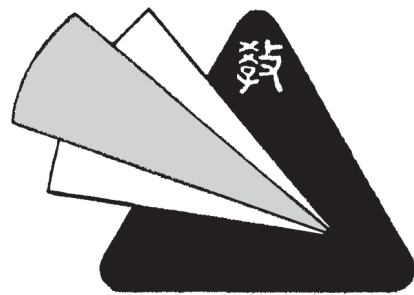
2023年がスタートし、例年のようにあっという間の1か月間が過ぎました。今年度も残すところ1か月余りとなりますが、年度末の最後のまとめ、来年度の準備と県内の教頭先生方も日々あわただしく過ごされていることと拝察いたします。

「無事これ名馬なり」という言葉を以前お世話になった大先輩の校長先生が仰っていたことを今でも記憶しています。教頭という立場は、様々な場面や人に対して対応すべきことが多く、激務であると感じていますが、そのような時に前述の言葉を思い出し、心身ともに健康であることが、教頭として一番重要なことであり、特筆する活躍はなくとも日々コツコツと取り組むことが学校全体のスムーズな運営に好影響を及ぼすと考え、毎日の業務に勤しんでいるところです。県内の教頭先生方におかれましても、心身の健康に十分留意され宮崎県の教育充実にますますご貢献なされることを心から願っております。

最後になりますが、県内各支部の広報担当の教頭先生方のご協力で、無事に今年度も県教頭会会報を年間3回発行することができました。これも何かとご多様な中、執筆していただきました関係の先生方のお陰であり、心から感謝申し上げます。会員の皆様全員にとって有意義な年度末になりますことをご祈念申し上げ、編集後記をしめさせていただきます。

令和5年2月

宮崎県公立小中学校教頭会 広報部



MVPA